

# House-View Report

October 2022



**IFA Leading™**

Asset Management  
with Higher Transparency.

IFA Leading is a financial institution with solid knowledge and ethical attitudes. We pursue truly better financial service through constant reflections and actions. We believe that asset management should make your aspirations come true by not only leveraging your capital but also by understanding your life stories and social trends.

We promise you to protect your assets and make sure you know all the reasoning behind our actions, to guide you through to make truly satisfying decisions. We will always be there as your closest advisor to support your life plans and financial goals. Financial service to enrich your future and our society.

# Index 目次

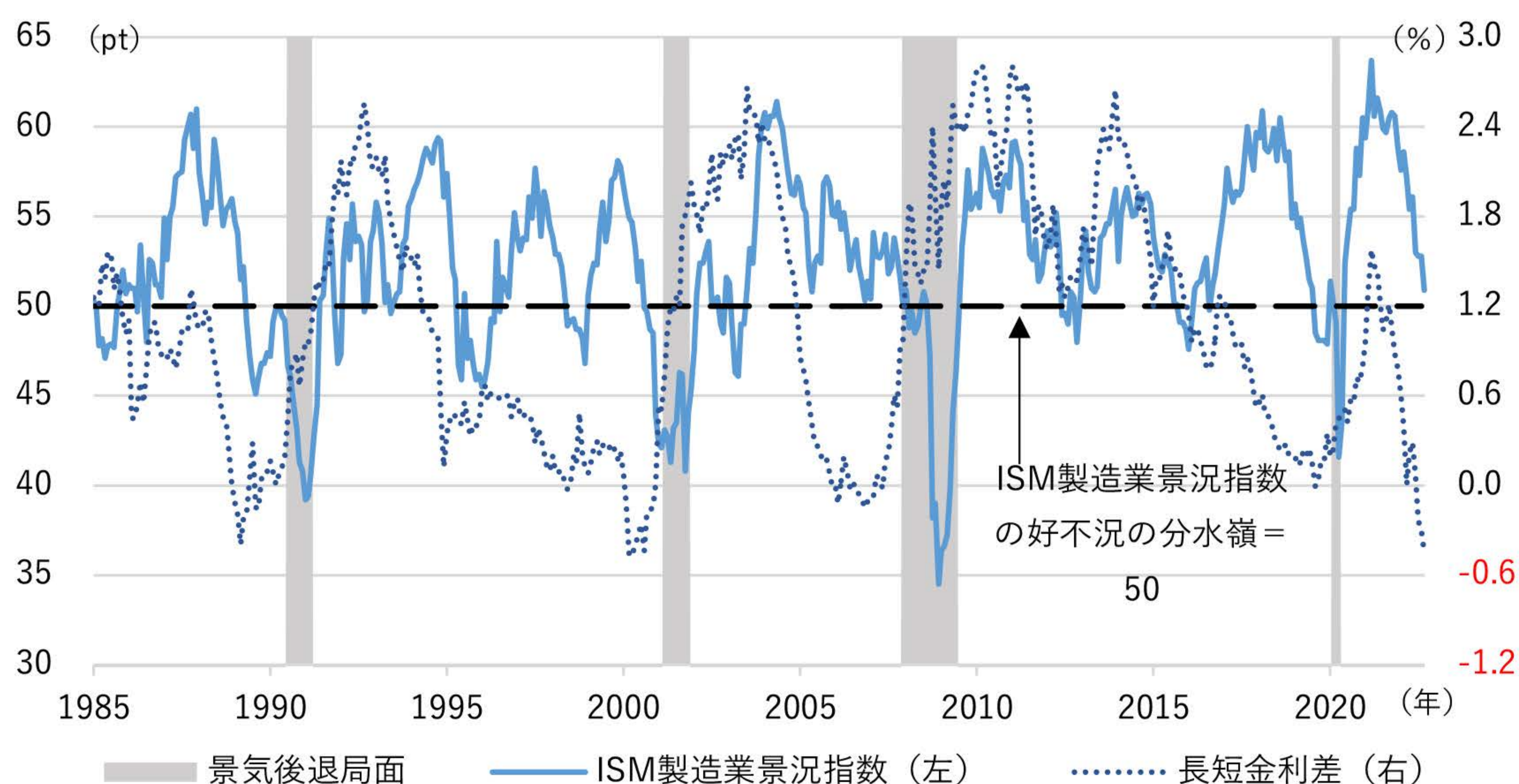
10月における投資環境	p.1
投資戦略	p.2
株式の状況	p.4
債券の状況	p.6
オルタナティブの状況	p.8
為替相場の状況	p.9
参考指標一覧	p.10
当レポートにおける用語集	p.13

## 【10月ハウスビュー】投資戦略のキーワードは「デフレーション」

### 【投資環境】景気サイクルは下降局面入りしている可能性が極めて高い

- インフレ沈静化の兆しや景気サイクルに底入れ感がみられるまでは、資産価格の下落リスクを意識した慎重な投資姿勢が求められると判断している。地政学リスクに端を発したエネルギー供給問題や、労働市場のひっ迫といった構造要因によってインフレが持続的となる兆候がみられるなど、リスクシナリオが顕在化しつつある。
- 各国中央銀行の金融引き締めによって、下図に示すように景気サイクルは下降局面入りしている可能性が極めて高い。10月3日に米供給管理協会（ISM）が公表した9月の米製造業景況指数は50.9と市場予想を下回り、20年5月以来の水準に低下した。加えて、米国債市場では景気後退の予兆とされる逆イールド（長短金利の逆転）が続いており、景気悪化懸念は根強い状況だ。
- 先行きの金融市場は、変動幅の大きい不安定な相場展開が続くだろう。今後控える主要国企業の決算発表では、企業業績の下方修正が増える可能性が否定できない（P.11の米国のリビジョン・インデックスは、業績見通しは下方修正が優位となっている）。また、金融引き締めの程度を巡っては、パウエル議長が言及するように「データ次第」である部分が大きく、マクロ経済指標、特にインフレ関連指標に一喜一憂する神経質な値動きが予想される。

【ISM製造業景況指数と米長短金利差】



注：データは月次で22年10月は同月3日時点。灰色のハイライトはNBER（全米経済研究所）が定める景気後退局面。長短金利差＝米10年国債利回り－米2年国債利回り 出所：NBER、ISM、Bloombergのデータより当社作成